

第80回 IFALPA 年次総会 出席報告



2026年4月23日から26日までの4日間、トルコ・イスタンブールでIFALPA年次総会が行われました。IFALPAには75か国、16万人以上のパイロットが所属しています。また、1つの国に1つのALPA(Airline Pilots' Association)という原則で構成されており、日本はALPA Japanが加盟ALPAとなっています。今回は中東不安定な状況下でのトルコ・イスタンブールという地理的位置関係もありましたが、委任を含め57カ国のALPAが参加しました。



Opening Sessionではトルコの航空局長、TALPA(Turkiye Airline Pilots' Association)President、IFALPA Presidentがそれぞれ登壇し、盛大に総会がスタートしました。総会では濃密スケジュールの中で様々な議事が進行されましたので、整理してご紹介します。

< Hot Topics >

近年の主要なテーマとして以下の4つが“Focus Area Ahead”として紹介されました。

- ✓ Positive safety culture
- ✓ Conflict Zoon
- ✓ GNSS Interference
- ✓ Social Sustainability

この中でも、Positive safety culture(PSC)に関して、パネルディスカッションなども行いながら議論の時間を多く費やしました。PSCに関するポイントとして、

- 世界中で起きた様々な、事故・インシデントにおける重要な側面であること
- 各国・文化・国民性で大きく現状が異なる点
- IFALPAがどう、様々な状況に対応して、その役割を果たすべきか

などが挙げられ、現時点でのIFALPAの役割としては以下のような内容が紹介されました。

- 業界の利害関係者および国際機関との協力を強化することでPSCを可能にする体系的条件

を推進すること

- Member Association (MA) が規制当局や意思決定者と効率的に関わるための支援を行う
- リーダーシップの理解と行動の改革を支援すること
- 国際基準やガイダンスの強化が有益な場合には、ICAO に問題提起すること

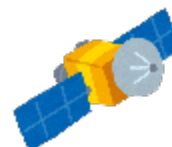
パネルディスカッションでは、「自国ではどの程度 PSC が感じられるか？」というアンケートが実施され、結果は以下の通りです。

皆さんはどう
感じますか??⑥⑥

回答選択肢 (Confidence Level)	割合 (%)	ステータス
ある程度確信している (Moderately confident)	38%	最多回答
あまり確信していない (Limited confidence)	31%	2番目に多い
非常に確信している (Very confident)	19%	3番目に多い
全く確信していない (No confidence)	12%	最少回答

日本では残念ながら十分な PSC が構築できているとは言えません。今後も継続的に規制当局、現場、国民が一体となった取り組みが必要不可欠です。

GNSS Interference に関しては、IFALPA が注視しているポイントが共有されました。



- 局所的な現象だが、発生地域は変化しており、どこにでも起こる可能性を認識
- 障害の影響は発生している地域だけではなく、影響を受けたシステムが完全に復旧しない限りフライト全般にわたって航法性能の低下が続く可能性があること
- したがって、地上ベースの航法援助施設などの **Backup** が重要となる
- **Spoofing** された GPS 位置情報が、航空機の全てのシステムに与える影響についてはまだ完全に把握されていない。(想定されるハードウェアの組み合わせが多すぎるため) メーカーには起こりうる連鎖的な影響の調査を進め被害を軽減する手順を開発するべきである。

総会中に PSC と GNSS Interference については総会提言 (Conference Statement) が採択されました。採択された文書は以下を参照して下さい。

[Positive Safety Culture](#)

[GNSS Radio Frequency Interference and Signal Manipulation](#)

< Helicopter Committee と Women Pilot Committee >

IFALPA の Standing Committee (専門委員会) は現在、12 委員会ありますが、この中から 2 つの委員会をご紹介します。

① Helicopter Committee (HEL)

ヘリコプター Pilot も我々 IFALPA の仲間で、豪州のヘリコプターパイロットを中心に HEL Committee が継続的に活動しています。簡単に HEL Committee の Topics を紹介します。

- Technical Crew Members (TCMs) 操縦士以外に乗り込む技術者 (救助、観測など)
- All Weather Operations Supplement 低空を飛ぶヘリコプター特有のルール

- SMS ヘリコプターに特化した Safety Management System
- ICAO Annex6 - Broad Review. Incident Reduction 事故・インシデント防止
- Helicopter CBT/EBT ヘリコプターパイロットの訓練手法について
- Radio / GNSS – spectrum interference 携帯電話の 5G 電波も悪影響を及ぼす

② Women Pilot Committee

Women Pilot Committee は活動が活発化し、Working Group から昇格しました。総会では初代の委員長選挙が行われ、ALPA Singapore 所属の FO Julia Ho(左下写真)が選出されました。



世界で最も女性Pilotが多い航空会社は米国の United Airlines で、全パイロット数約 19,000 人の内 1,500 名ほど(約 8%)が女性パイロットです。女性パイロットがキャリアを継続していくには、親族やパートナーなど、周りの協力が不可欠な現状を共有していました。

< Human performance Committee (HUP) 委員長へ日本のアルコール事例対応に対する謝辞 >

昨年、IFALPA HUP 及び Legal Committee (LEG) で、日本(特に日本航空)におけるパイロットのアルコール管理の現状をめぐって議論がありました。その後、HUP 委員長の働きかけにより IFALPA 会長から日本の航空局宛にレターを作成し、2026 年 1 月 22 日に ALPA Japan から航空局へ直接手渡ししました。この件に関して、今回の総会で ALPA Japan 議長から HUP 委員長へ謝辞を伝えました。



(参考) [49AJN13 | アルコール管理に関する IFALPA レターを航空局に提出 - ALPA Japan](#)

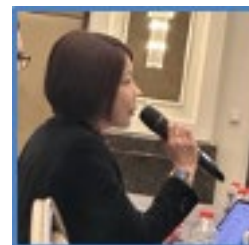
< Asia Pacific Regional Meeting >

Asia Pacific Regional Meeting は年に 2 回行われ、その内 1 回はこの総会期間中に開催されます。議論の時間が限られた中、アジア太平洋地域に属する 16 カ国の全 ALPA から Update や情報共有が行われ、ALPA Japan も主に、AAP 関連、HUP 関連の内容を Update し、共有しました。更に、今秋に東京で開催される Asia Pacific Regional Meeting についてのプレゼンテーションも行いました。

- 新ウエスタン・シドニー国際空港 (SWYN/WSI) について、豪州 ALPA から共有がありました。現

シドニー・キングスフォード・スミス国際空港は Curfew がありますが、こちらは 24 時間運用が可能です、シドニーの約 65%の地域から 45 分で到達できる位置にあります。開港は 2026 年後半の予定。

- IFALPA のメンバーではありませんが、台湾 ALPA の代表団も参加しました。代表団からは、台湾における PSC の醸成が芳しくないとの報告がありました。インシデントや事故が起こった場合に、個人の責任を過度に追及したり、懲罰的な処分を行うなどまだまだ安全文化醸成には程遠い状況であることから、IFALPA など世界の仲間と一緒にあって取り組む必要があると主張しました。



台湾 ALPA Anny Lee 氏
(エバー航空 787Captain)

IFALPA には PSC に関する「Strategic Plan to Develop Positive Safety Culture」という、PSC をそれぞれの地域・国で醸成させる発行物もあります(右図)。文化・国民性・歴史的背景、様々な異なる国々が所属するアジア太平洋地域においては今後も PSC の醸成は大きな課題と共に、大切な分野になっていくのは言うまでもありません。最後に、IFALPA アジア太平洋地域のリーダーである CAPT. Jaffar から、アジア太平洋地域における今後の目標として以下の 6 点が紹介されました。

- Enhancement of our Capacity, Capability & Advocacy Skills
- Positive Safety Culture – Industry & APAC & MA
- Fatigue Management – Local Concerns & Counter Measures
- Aviation Mental Wellness – Critical Awareness & Support
- Political and Governmental affairs – Acquiring Skill Sets
- APAC Women Pilots group – New Horizon



<ICAO Assembly 42>

2025 年 9 月 23 日から 10 月 3 日に、カナダ・モントリオールの ICAO 本部にて第 42 回 ICAO 総会が行われました。この会議は国連の専門機関である国際民間航空機関(ICAO)の最高意思決定機関で、10 日間にわたり、192 の加盟国・地域、2900 人を超える出席者と、436 の Working Paper、262 の Information Paper、32 の Resolution が議事されました。総会ではこの ICAO 総会の報告も行われました。将来的な諸規則になっていく可能性の高い内容を取り扱うほか、各国の当局、業界の利害関係者も一堂に参加して将来の世界的航空産業についての議論を行う極めて重要な場です。

ここではその 1 つとして、IATA から提案のあったパイロットの年齢制限に関する Working Paper をご紹介します。IATA は「科学的根拠なしでパイロットの年齢制限を 67 歳まで引き上げる」という提案でしたが、IFALPA は総会の中で「反対」を表明しました。慎重な意見として挙げた内容は

- 現在の医学的見地は決定的なものではない。つまり、医学的なデータがまだ不十分である
- 各国の多様な慣行、法的な枠組み、対応能力に違いが大きい

というものです。

結果として、強引に年齢を引き上げるのではなく、「まずはしっかりとデータを集めて分析を行い、同時に取り残される国がないようにデータの収集・航空医療体制の強化を幅広く支援しながら皆でサポートしていこう」という方向性でまとまりました。また、各国および航空関係者に対し、パイロットの年齢制限を見直すための ICAO のこうした取り組みを支援するように促しました。

<最後に>

最終日の 4 月 26 日は偶然にも世界中の運航乗務員に敬意を表し、航空の安全を祝う「世界パイロットの日 (World Pilot's Day)」でした。連日、朝食会場での意見交換や Communication にはじまり、9時～17時の議事、そして夕方から夜までの Social Event での交流と親睦を経て、総会は盛會に終わりました。IFALPA としての大きな行動目標として

- Stronger Member Associations (より強い結束力)
- Engagement & Collaboration (深い関りと協働)
- Strategic Evolution (戦略的進化)

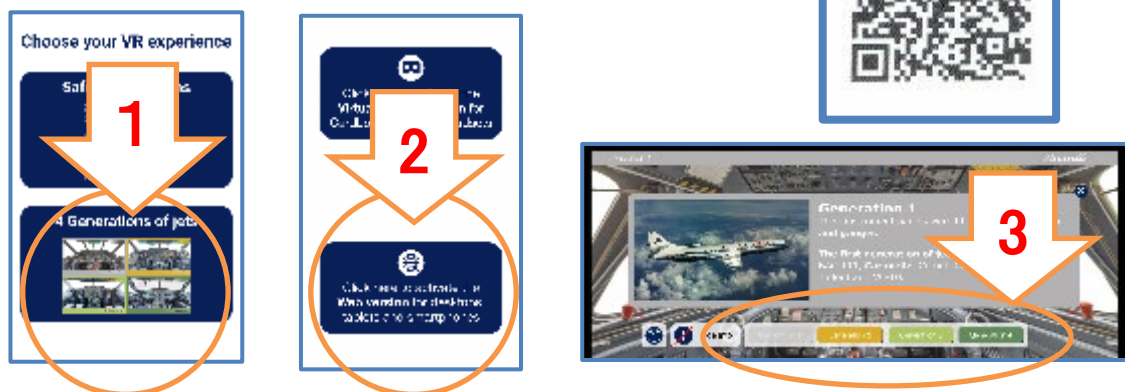


を掲げました。また、今回新たな仲間としてラトビアの ALPA が加盟しました。次回の総会は 2027 年にウーンで行われる予定です。ALPA Japan は引き続き、加盟メンバーが日本国内だけではなく、世界中においても仲間と安全な運航を継続できる環境づくりに取り組んでいきます。

以上

<おまけ>

① コクピットがバーチャルに見られます。お試しあれ！



② 2026 年 10 月 20 日～22 日、東京で IFALPA APRM が開催されます。ALPA Japan Homepage (<https://alpajapan.org/>) にサイトを新設しましたので、是非ご覧ください！

